

“保育料を引き上げないで”



熊谷あつ子市議が採択を主張

↑国に教室冷暖房の設置を要求しました

熊谷あつ子市議は11月25、26日に上京して、文部科学省にたいして、学校の教室に冷暖房を設置するよう求めました。川崎市や京都市、東京23区ではすでに設置されている実態をつきつけました。

11月30日、市議会第2委員会で保育料の引き上げに反対する請願署名の審査をしました。日本共産党の熊谷あつ子市議も出席しました。

市側は「他市と比べても高くない」「税金で保育の運営負担をしており、今以上の税負担は困難」と答弁。共産党は、市民税課税世帯では他市に比べて高い実態を明らかにし、引き下げを主張しました。

日本共産党以外、自民・公明・民主・みらい・平成は一人も質問しませんでした。採択を主張したのは共産・社民のみでした。民主は紹介議員になっているのに、「当時と（与党か野党か）状況が違う」という理由で採択に背を向けました。



“廃止された生活保護の老齢加算復活を”

自民・公明政権時代に生活保護の老齢加算（月1万8000円）が廃止されました。12月2日に市議会第2委員会で、この加算を復活するよう国に求める請願署名が審査され、熊谷市議は、加算の廃止で1日2食など食費のきりつめ、風呂の水を2週間かえられないなど「健康で文化的な最低限度の生活」がおびやかされている実態をつきつけ、採択を主張しました。

しかし、自民・公明・民主・みらい・平成は質問もせず採択に背を向けたため、継続審議となりました。

自民・公明・民主などは採択に背をむける

日本共産党